

婦人科腫瘍委員会

委員長 青木大輔

副委員長 片瀬秀隆

委員 齋藤俊章, 杉山徹, 鈴木直, 蜂須賀徹

1. 常置的事業

(1) 婦人科悪性腫瘍登録業務を行い、以下の患者年報と治療年報を日本産科婦人科学会雑誌(日産婦誌)に掲載し、日本産科婦人科学会(本会)ホームページに公開した。

2012年患者年報(日産婦誌66巻3号)

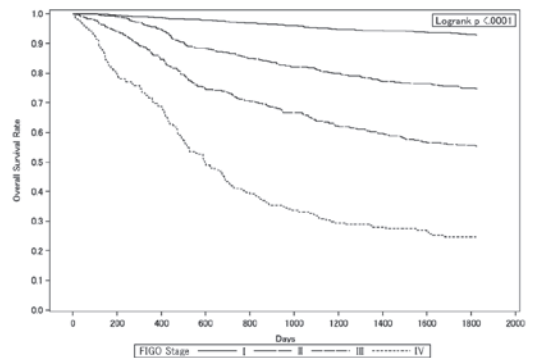
第54回治療年報：2006年治療症例(日産婦誌66巻3号)

(2) 第54回治療年報に掲載した2006年症例についての

治療成績報告の中から、子宮頸癌、子宮体癌ならびに卵巣悪性腫瘍の進行期別累積生存率、Kaplan-Meier生存曲線を抜粋して提示する。

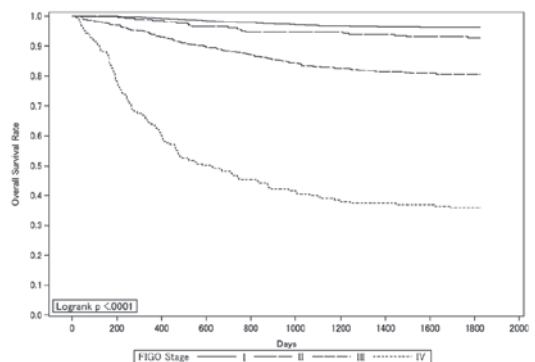
第54回治療年報のうち、特に子宮体癌では5年生存率が良好な結果であったため、データを精査した。登録要項には予後報告は満5年で登録すると記載されているが、子宮頸癌、卵巣癌は全体の約15~20%は満5年未満の観察期間での登録であり、子宮体癌は観察期間が満5年未満が約75~80%、満4

FIGO Stage		Patients treated		5-year survival		Lost to follow-up
		No.		%		
I	A1	332	1401	99.0	92.9	73/1401 (5.2%)
	A2	35		100.0		
	A not cl.	28		-		
	B1	757		93.3		
	B2	213		80.0		
	B not cl.	34		-		
	not cl.	2	-			
II	A	192	662	81.4	74.6	38/662 (5.7%)
	B	470		71.9		
	not cl.	0		-		
III	A	30	414	53.4	55.3	26/414 (6.3%)
	B	384		55.5		
	not cl.	0		-		
IV	A	89	222	27.9	24.3	7/222 (3.2%)
	B	131		21.8		
	not cl.	2		-		
Total		2699		77.1		



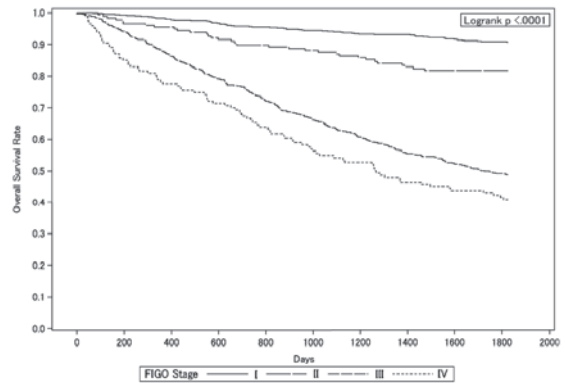
子宮頸癌 進行期別累積生存率と Kaplan-Meier 生存曲線(2006年治療症例)

FIGO Stage		Patients treated		5-year survival		Lost to follow-up
		No.		%		
I	A	597	2105	98.8	96.3	53/2105(2.5%)
	B	1086		96.6		
	C	413		92.3		
	not cl.	9		-		
II	A	114	266	92.9	92.7	8/266(3.0%)
	B	150		93.2		
	not cl.	2		-		
III	A	360	658	85.9	80.6	24/658(3.7%)
	B	11		54.5		
	C	284		75.1		
	not cl.	3		-		
IV	A	20	214	57.0	35.8	17/214(7.9%)
	B	188		34.1		
	not cl.	6		-		
Total		3243		89.0		



子宮体癌 進行期別累積生存率と Kaplan-Meier 生存曲線(2006年治療症例)

FIGO Stage		Patients treated		5-year survival	
		No	%	No	%
I	A	268	746	94.2	90.7
	B	22		76.2	
	C(b)	273		91.6	
	C(1)	21		81.0	
	C(2)	76		86.3	
	C(a)	86	87.0		
II	A	12	180	100.0	81.8
	B	27		80.8	
	C(b)	49		79.2	
	C(1)	11		81.8	
	C(2)	29		78.9	
	C(a)	52	82.0		
III	A	23	615	65.2	48.9
	B	71		56.9	
	C	521		47.1	
IV		148		41.0	
Neoadjuvant Chemotherapy		207		40.5	
Unknown		2		0.0	
Total		1898		66.8	



卵巣悪性腫瘍 進行期別累積生存率と Kaplan-Meier 生存曲線(2006 年治療症例)

年未満が約 60~70%であった。このようなデータを用いた解析では計算上予後が良好になる可能性が示唆される。今後、この点も踏まえデータマネージメントに関して改善を図るべく各施設に疑義照会を行うことなどを検討している。

2. 親委員会

- (1)平成 25 年度事業報告、および平成 26 年度事業計画・予算案について討議した。
- (2)日本産科婦人科学会婦人科腫瘍委員会ホームページについて、掲載項目が増え複雑化したため、ホームページより患者年報、治療年報を削除し、UMIN の患者年報、治療年報のホームページにリンクさせることで、内容の整理を行った。また、婦人科腫瘍委員会ホームページ内の婦人科腫瘍オンライン登録に関する Q&A について修正を行った。
- (3)婦人科腫瘍オンライン登録施設は各施設の倫理委員会の承認を義務付ける方向となっており、半数以上で倫理委員会の承認または申請がなされていることが確認されている。各施設の承認状況のアンケート調査を行い、倫理委員会の承認状況を確認した。
- (4)婦人科腫瘍オンライン登録について、一部現状にそぐわない登録項目があるため、TNM 分類や治療法について、今後見直しをすることとした。登録項目の変更は、2015 年症例登録分より施行することとしたが、2015 年症例登録の一時休止も伴うため、早期に会員への周知を行う予定である。
- (5)卵巣癌・卵管癌・腹膜癌の手術進行期分類が FIGO

にて改訂されたのを受け(Int J Gynaecol Obstet. 2014; 124(1): 1—5), 新しい日産婦分類の作成を行った。さらに、外陰癌の日本語訳(日産婦誌 64 (6): 1471—1477; 2012)を再確認、一部修正を加え、陰癌の FIGO 分類(Int J Gynaecol Obstet. 105(1): 3—4; 2009)の日本語訳を作成した。加えて子宮体癌取扱い規約(第 3 版 2012 年 4 月 金原出版)にすでに掲載されている子宮体部肉腫(子宮筋肉腫/子宮内膜間質肉腫, 子宮腺肉腫)の FIGO 分類の日本語訳もあわせ、これらの進行期分類を本会として正式に用いることについて理事会にて承認された。これに伴い、稀な婦人科がん(外陰癌, 陰癌, 子宮肉腫, 絨毛癌)の登録事業を計画している。それぞれについての登録項目を検討し、登録画面を作成し、登録事業開始に向けて準備中である。また、卵巣腫瘍取扱い規約(改訂第 2 版 1997 年 8 月 金原出版)の改訂作業が進行中である。

- (6)外陰癌の進行期分類にこれまで使用されてきた「鼠径・大腿リンパ節(inguino-femoral lymph node)」との名称は、本会では「鼠径リンパ節」で統一することとした。
- (7)厚生労働科学研究費補助金「がん登録からみたがん診療ガイドラインの普及効果に関する研究—診療動向と治療成績の変化」(平田班)で行われる研究では各種ガイドラインの普及により治療成績の改善がみられるかの検討が行われている。本会の患者年報、治療年報がこの研究に対して活用可能か検討した。
- (8)FIGO の婦人科腫瘍における家族性腫瘍に関する

コンセンサスステートメント(案)の内容を確認し
 渉外(担当常務理事:木村 正)を通じてコメント
 を送った。最終的にはFIGOガイドラインとしてと
 りまとめられ、Int J Gynaecol Obstet 124: 189—
 192; 2014に掲載された。

- (9)リンパ浮腫ガイドライン 2014 年度版につき、当委
 員会として推薦することとした。
- (10)「本邦における子宮内膜症の癌化の頻度と予防に
 関する疫学研究(JEMS)」について、今後も親委員
 会での所管事項であることを確認した。

3. 小委員会

1) 婦人科悪性腫瘍登録改善に関する小委員会

委員長 蜂須賀徹

委 員 青木陽一 片瀨秀隆 加藤秀則
 斎藤俊章

稀な婦人科がん(外陰癌、陰癌など)の新規登録事業
 の立ち上げについて検討した。それに伴い、進行期分
 類や TNM 分類の解釈の問題点についてのすり合わせ
 や、新規登録項目について検討した。

2) 本邦における卵巣腫瘍の登録のあり方検討小委員 会

委員長 杉山 徹

委 員 岡本愛光 紀川純三 斎藤 豪
 長谷川清志

卵巣癌の国際進行期分類(FIGO1988)が卵巣癌・卵
 管癌・腹膜癌の進行期分類として改訂された(Int J
 Gynaecol Obstet 124: 1—5; 2014)ことに伴う、日産婦
 手術進行期分類の改訂案を作成した。

3) 遺伝性乳癌卵巣癌(HBOC)の啓発および取り扱い 小委員会

委員長 鈴木 直

委 員 小林 浩 佐藤豊実 高松 潔
 竹島信宏

- ①遺伝性乳癌卵巣癌(HBOC)の診療状況に関するア
 ンケートを作成した。
- ②「本邦における遺伝性乳癌卵巣癌(HBOC)に対す
 る診療状況に関する実態調査」を日本産科婦人科
 学会臨床研究審査委員会に申請し承認された。
- ③遺伝性乳癌卵巣癌(HBOC)に関する日本産科婦人
 科学会としてのステートメント(案)の作成を検討
 した。

4) HPV ワクチンの効果と安全性に関する調査小委員 会

委員長 井篁一彦

委 員 塩沢丹里 長井 裕 長谷川清志
 深澤一雄

- ① HPV ワクチン接種医師向けマニュアル、および
 副反応への対応と診療体制フローチャートを作成
 中である。
- ② HPV ワクチンの有効性と安全性に関する国内外
 のエビデンスを検証し、2013年9月に厚生労働大
 臣宛に HPV ワクチンの接種勧奨再開審議に関す
 る要望書を提出した。
- ③全国 80 大学の産婦人科に向けて、HPV ワクチン
 の安心ネットワーク(仮称)作りに関するアンケー
 ト調査を施行した。